

同窓会報

第16号

昭和57年 5月10日

社団法人
上田高等学校同窓会印刷所
信毎書籍印刷(株)

独立八十周年記念事業

募金総額壹億円突破

明治八年九月県下最初の中学校として発足した本校は幾多の変遷を経て、明治三十二年四月長野県上田中学校より独立して、長野県上田中学校となった。独立して、昭和五十五年四月八十周年を迎え、同窓会を中心に独立八十周年記念事業実行委員会が組織され、七千万円の予算で記念事業の募金がされたが、途中目標をかね一億円を募集することになった。

明治八年九月県下最初の中学校として発足した本校は幾多の変遷を経て、明治三十二年四月長野県上田中学校より独立して、長野県上田中学校となった。独立して、昭和五十五年四月八十周年を迎え、同窓会を中心に独立八十周年記念事業実行委員会が組織され、七千万円の予算で記念事業の募金がされたが、途中目標をかね一億円を募集することになった。

昭和五十五年十月十一日上田公園の市民会館で、盛大な記念祝典が開催されたことは、15号で報告した。その後も寄附金が集まり、昭和五十七年三月現在、収入総額は左記の通り億圓門を突破した。収入総額金二一九、六八二、千円、支出総額金二、一、二八四、千円、募金は同窓会館に附属する生徒運動部合宿所、造園事業、同窓会館の補修事業、校史の発行に当てられ、本年四月八日金八、九万余円の残金は、引き続き刊行される校史発行と造園事業に使用される。募金が、一億一千万円を突破した。

支部総会の日時

昭和五十七年度の総会は、本部が六月六日午後一時より同窓会館で行うことが四月二十六日の幹事会で決定したが、これを皮切りにして、関東支部第二十一回大会が六月二十九日、第八回長野支部大会が七月七日開催される。関東支部大会は例年の虎の門農林年金会館を要し、上野池の端「文化センター」で挙行される。長野支部大会は毎年七夕の日に開催されるが、会場は今年も長野市山王会館の予定である。

美麗な格技棟 三月完成

階下に音楽教室、食堂

昭和五十年本校校舎の全面改装が決定され、着工以来七年の歳月を経て、昨年十月体育館一三三八平方メートルの巨大な建物で完成し、本年三月、学園のブルーの南側に東西に長く、階建の格技音楽食堂棟が完成した。この建物は二階が、柔道と剣道場、階下に音楽教室と食堂が配置されている。これにより学園の北側にあった木造の音楽教室は撤去された。食堂が設置されたのは柳澤文秋理事長の努力の賜ものである。

これにより全面改装はほぼ完成し、本年度定時制教室が新設されるだけとなった。三月二十三日学校は格技室完成祝賀会を開催し、新津校長の挨拶の後、柳澤理事長が祝辞を述べた。この日、柔道場と剣道場に於いて、生徒の道場開きが行われ非常に綺麗な道場に参列者はびっくりした。写真は格技棟で、ブルー側より撮影したものである。

昭和五十六年度総会

改装なった同窓会館で

昭和五十六年度同窓会総会は、改装した同窓会館の大講堂で、五十六年六月十七日午後、時より開催された。当日は映画「東大寺の改装」が上映された。これは改装を担当した清水建設株式会社が、時間の映画を四十分短縮した映画で、病院を新築中の柳澤理事長が清水建設に交渉して上映した。

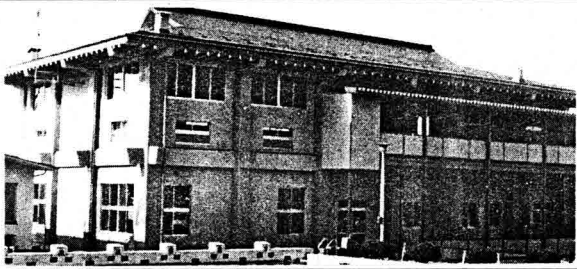
講演は「一九八〇年代の通商政策」と題して、通産省基礎産業局長小松国男（第四十四回卒業生）が担当され、熱弁を振られた。終って総会に入り、昭和五十五年度の事業報告と歳入歳出決算書の承認を求める件、昭和五十六年度の事業計画と歳入歳出予算案を審議した。

議事を終りして懇親会に移り、黄綬褒章中野恵（19回）、勲三等旭日中綬章東龍夫（23回）、勲三等瑞宝章宮下忠雄（25回）、勲五等双光旭日章島島一（28回）、藍綬褒章平野茂（39回）（以上敬称を略す）の五名の受賞祝賀会を併せて行なった。

五十七年度同窓会総会
昭和五十七年度社団法人上田高等学校同窓会は昭和五十七年六月六日（日曜）午後一時より同窓会館で挙行される。

当日は映画田中豊雄（36回卒業生）製作の「四つ塔の物語」が上映され、講演は防衛庁装備局長和田裕氏（48回卒業生）が「最近の防衛問題について」を講演される。当日は昭和五十七年度に受賞された、太田垣甫夫（24回）、倉沢周平（26回）、山本太郎（26回）、小林久雄（28回）、田中五郎（28回）、木村文厚（74回）（敬称を略す）を招待する。

同窓会是一年間の歳入が七百二十万円で、学校入学生徒が入学時支払う同窓会費は二百四十万円に過ぎず、会館使用者の負担金が百二十万円位で、三百万円（一口以上）を負担される維持会員の会費がなければ同窓会は事業が出来ない。なお東洋信託株式会社の三万円の信託（五年間据置き返金される）利用で会費支弁が出来る。



●すし・料理の専門店●



電話 上田0268(22)0128

信州 清酒

福無量

長野県上田市下塩尻35

沓掛酒造株式会社

社長 沓掛 信 敏 (第42回)

退任にあたって

校長 新津真澄

昭和五十一年四月、上田高校着任にあつて、この学校の長所をしっかりと見据えてこれを伸ばし十二通学区制施行後生じた短所があるとするならば、それを正したいと、いき、か負つた考えを持ったことでした。しかし、生徒たちの学校生活は、規律正しく、向学心に満ちた謙虚な行動がそこかしこで目につき、ゆかしい歴史や伝統の重みをひしくと感ずることが出来ました。

また、校舎全面改築の工事が始まつておりました時だけに、一刻も早く建設工事を促進させ、環境整備を図る中で、独立八十周年を上田高校教育の確かな発展の起点にしたいと考えました。幸いに同窓会、PTAの皆様の盛んな御支援をいただき、県教育委員会の御理解を得て、一瞥のような建物物が次々と竣工しました。この間八十周年記念事業実行委員会の独自事業も加えていただき、上田高校の面目が一変するよう施設に期した次第です。このように、所期の目標が達成出来たことは、ひとえに同窓会の皆さんをはじめPTA、地元市町村御当局の物心両面にわたる力強い御援助の賜と衷心より厚く御礼申し上げます。

就任御挨拶

校長 斎藤嘉郎

喜びでありました。顧みて、あの八十周年記念の大きな節目にも参画させていただき、二千人の大合唱に加わった感激は終生忘れ得ないこととなりました。五年間にわたって終始お寄せいただきました御指導と御鞭撻に重ねて重ねて厚く御礼申し上げます。おわりに、社団法人上田高等学校同窓会の皆様方が、母校とともによく御発展されますよう折念してやみません。

上田城下の桜も終り、葉桜の好季節を迎える頃となりました。同窓会の皆様方には愈々御健勝で御活躍のこととお慶び申し上げます。

このたび人事異動によりまして図らずも思ひ出多い母校上田高校の校長を拝命いたしました。誠に身に余る光栄に存じますとともに、その任の重大さに身の緊きしき思ひがたいです。

昭和五十一年着工以来、長年にわたる校舎の全面改築工事も定時制校舎棟を残しては、完成し、面目を一新して近代的な校舎に変わりました。立派な教育環境が整いつつ、ありますことは、皆様とともに御同慶にたえない所であります。独立八十周年記念を機に改築に併せて環境整備事業を進めたいと考えておりますが、同窓の先輩各位の心温まる母校愛と、絶大なるご支援とご鞭撻に對しまして、厚

校歌碑を建設

第四十七期卒業生

秋玲瓏の空衝きて。と新装なった母校本館をバックに、ロータリの中に建立された校歌碑を前にして、熟年近きわが四十七期会五十余人は、感慨深げに校歌を斉唱した。時に昭和五十六年六月六日午後五時。

「同窓会には、卒業後三十周年に際して母校へ記念品を寄贈する」という無言の慣習が伝えられていたのは、上田中学校最後の卒業の二十三年三月から数えて三十周年の五十三年ごろだった。同期には二十四年二月に新制高校最初の卒業生もいる。ちょうどその頃、同窓会では、母校創立八十周年記念事業が議題になった。

それならばと、五十四年五月地元の同期生を中心に四十七期卒業生三十周年記念寄贈実行委員会を発足させ、八十周年記念事業の募金活動とあわせて実施することにした。同年九月、同窓会の四十七期目標額が百八十万円と決つたので、それを含めて二百七十万円を目標に募金を開始した。

さて何を寄贈するかで数回にわたつて会議を開いた。そんな時、三二回卒の大先輩、県造園協会専務理事、本校井原三郎氏の造園設計の中で、本館前ロータリー内に校歌碑を設置する設計ができていた。これを聞き、委員会を開いて校歌碑寄贈を決め、ただちに学校側の校長新津先生をはじめ、同窓会側の八十周年記念事業期成同窓会

水野総務委員長、西川施設委員長の了解をとつた。その間、募金は着々と四十七期会事務局に届けられ、同窓会目標額は百七十万円に修正されたが、当初の百八十万円を「四十七期生一同」で完納した。

発注にあつたのは、一部の業者に迷惑をかけた場面もあったが、最終的には、紺屋町の伊藤石材店に決めた。アフリカ産の最高の石材「ベル」を使うことにした。揮毫者は同窓生にと考慮したが、結局は母校で教鞭をとつたということに金井朴水氏に依頼した。除幕式を五十六年四月に予定したが、ロ

「こしあたりが最後の会になると思うので、今秋同級会を開くよう手配してくれないか」と、東京大土会若林泰三君から妙な便りを受け取つたのは八月中旬であった。地元の二会でも又、同級会のことを話し合つていたので、「よし来た」とばかり池田英雄、遠藤憲二、山浦厚の三幹事に

つて計画が進められ、十月十八日、別所温泉、花屋ホテルで前同上山田温泉開催後三年振りで開いた。出席者次の通り。島田次郎、松並忠久、滝沢勝人、同夫人寿々子、平島実、柳沢、菅田中、原田久雄、宮城、博、西沢慶次郎、休養三、池田

「ロータリー造成が予定より早まったので、それにあわせるため延期し五・六・六・五と覚え易い日時を選んで決めた。神官の修祓に始まり、地元と遠来の代表五人の手で除幕され、黒光りのした石に刻まれた、紙にならば墨痕あざやかなともいふべき校歌が現われ、母校プラスバンドの伴奏で、多数の来賓とともに声高らかに斉唱した。

式は柳沢同窓会理事長など来賓や同期生代表の玉串奉奠から感謝状の贈呈などとおこりなく無事終了し、つづいて同窓会館で祝賀会を催し、一つの事業をやり遂げたという満足感で美酒を心ゆくまで楽しんだ。が、あいつの途中で新津先生がいわれた「この校歌碑が、校門をくぐる生徒たちの心の支えとなり、伝統ある良き校風が

英雄、山浦厚、署名順の諸君十三名で何れも元氣な顔を見せる。東京方面八名、地元五人で、前景の割合には集りは、良くなつた。何れも喜喜過ぎの高令の爲め。

懇親会は六時より。その前に記念写真をとる。池田幹事の諸報告あり、先ず最近の物故者、上原安正、山崎定之助、中島光雄、清水正邦、母袋重郎の諸君の霊に黙祷。病氣で長期入院の、橋詰英雄、横沢要、要両君の近況報告。欠席者が多いが、数名の旅行中の者を除いて、病氣療養中の者が殆んどで、感慨は無量であった。

第二十一期同級会

受け継がれることでしよう」という言葉に、そうあつて欲しいという念願が全員の酔いをさらに快いものにした。

なお、当日参加された方がたに記念品としてお配りした「三二校歌碑」(実物面積の百分の一に縮尺)は、まだ残像がありますので、ご希望の方は実費二千五百円でお預けしますから、同窓会事務局へお申し出ください。

すべての予定行事を終え、決算報告をすませた小林茂委員長をはじめ荒井嘉夫、伊勢剛、池野脩、大脇純一、清水周、長峰真一、町田吉司、宮沢巖、矢沢武、横谷重時、横山男による実行委員会は次回を誓って解散した。(横山二男記)

八十周年記念事業への寄付金は寄付者二十八名、七〇万円の目標に對して、九十五万円、一三六万(もう少し増加の予定)と好成绩はご同慶に堪えない。

「上田高校史草創編」は寄付された同級生の全部に配布済みである。宴会では、同窓会事務局で用意してくれた印刷物により、若林君の音頭で、校歌、応援歌、家歌など昔の青春にかえり、入れ歯をガクガクさせながら氣勢あふれた山峡の温泉宿は、秋の夜も静かに更けて行く。昔をなつかしむ話は、なかなか尽きない。一泊して翌日は、新装なった母校のたたずまいや、まるで変わった町並み、さして太郎山をスケッチして行く人々たちもあるなど思い出に残る同期会であった。

第39回青々会

関東大会は海で

昭和十五年卒業し、戦艦にまみれ、戦後経済大発展に、官公教商その他の分野に、その任を果した方々、そして一線に活躍中と云う六十才を眼の前にした仲間が恒例通り西沢会長を中心に三千余名集合という集いは格別に味のあるものである。在京諸兄を中心に遠く東京から参加した田中、小田中兄等、そして在郷の小林、山極兄、そして長野の関川兄を中心とする十五名の諸兄が一室に会し、秀と白髪が目立つ年柄の滲み出す会話は四十余年間の思い出であり先生、亡き友、消息不明の不参加の友のこと、そして子女、孫の話であり、何時しか世俗の憂は一瞬に流される思い出でありました。

戦後数十年欠くことなく継続され、地元では毎月一日に例会を持つ迄に親睦を深めた青々会は、今年も関東大会の担当となり長藤、久保田の二兄を中心とした在京役員が春頃より大企画を立案して、五月十六日三十一日、十一月一日に実施することになり、菊池兄の幹旋で、会場は江の島の洗心亭新館と定まり、若いコンパニオンの彩る深夜に及ぶ大宴会になった。

翌一日はかつて一等空佐と活躍された久保田兄の御盡力で海上自衛隊の軍艦「レド」に三千名の参加が許された。一生に一度味う事も難かしい観艦式への参加の為、我々の起床は五時半、朝食六時という修学旅行なみの行程で、二度乗換へた後、横須賀港停留の軍艦

「むらこも」(長さ一五米、排水量三〇〇噸)の士官室に落付いたのは九時頃のことであった。相模湾南西地域で展開した観艦式は主力艦艇四十五隻、航空機五十五機が参加し、一億二千万円の費用で行う大規模のものでした。横浜港を十時出発して午後五時帰港という九十一日の乗艦で多大の感銘を受けて、青々会五十六年度

関東大会を終りました。

昭和五会「秋の大会」

春には地元信州で、秋には東京と年一回開く昭五会(昭和五年、第十九回卒業)の秋の大会が秋雨煙むる十一月二十六日、池袋の料亭二天で開催された。参加した者は、

阿形宗彦、岩下美千穂、大塚毅、沢田明人、関政雄、滝澤賢、武藤矩晴、柳沢文正、山岸次郎の諸君と、上田からははるばる参加した半田栄一、鈴木健吉、竹内敬太郎の三名、それに地元東京方面幹事の中村薫、鎌原義則、六川善一君等三名の計十五名であった。

まづ鎌倉君の健康で再会のできた喜びの開会の挨拶について物故者の冥福を祈って黙祷をされた。次に竹内が母校八十周年記念事業に對する二十九回生のところ態度は協力に立派で生存者の90%の協力を得られたこと、全面改築の一環の体育館竣工祝賀会、最後に残された格技室音楽室等工

事の進捗状況について説明があり、六川、鈴木両君からは会員の其の後の動静について述べられた後、半田君の音頭で乾杯して懇親会に入った。

おのの其の後の生活や趣味、道楽、はては自分の健康法や最近出会った友人、見舞った級友の消息等がのべられて次第に話がはづんでくる。やがて飲むほどに酔うほどに哄笑爆笑、初めの気どった君「僕」は全くなくなって「オメエ、オレ」と和気あいあいの時の移るもの知らない。本間に同級会はいよいよやがて帰宅時間も迫ったころ井村君の主旨で校歌、凱歌、応援歌等を高唱し、万才を三唱し再会を約して散会した。

なおこの日は常連の坂田敏雄、松本洋順、上田から出席予定の三井祐三君等が急用のため欠席したのは残念だった。

上田中学三二一会

上中卒業五十周年記念慰霊祭

昭和57年3月14日、午後2時上田高校正門前に、遠く大阪、横浜、鎌倉、東京、館林等より、中には50年ぶりの級友、又少し身体の不自由になった級友、45名が集

合した。

日曜にもかかわらず、出校された新津校長と共に正門をバックに記念撮影。校長他二名の職員と矢島五郎君の案内で新校舎内を見学図書室でお茶をいた、き小休止の後、母校を見てまわる。柔道場、剣道場、兵器庫、特別教室の跡はすべて変り、昔を憶ふものは古井戸とグラウンドのみであった。

それよりバスにて別所温泉へ。北岡親世青木堂にて半田孝淳師(別所常楽寺住職、上中34期生、級友、玉月康彦君の従兄弟)の先導の下に級友61名の慰霊祭を行う。半田師は亡き友人一人一人の名前を読みあげられる。読経のあと、同級生、小山一平議員議員が友人代表として「慰霊の辞」を心より述べられる。出席者一同大感激をする。後に「慰霊の辞」は現存する級友百九名に配布する事に決定。苦心の文中には議員の名前は一つもないのが奥ゆかしい。

寺側の心温まる歓待の中に、半年前より折衝された志摩正一君、竹内正君の熱意、玉井康彦君の助言、応援等が感じられた。

祭を終って北岡親世青木堂を斜めバックに記念撮影をし級友、竹内正君の経営する「ホテル」だけにて懇親会を開く。自己紹介

卒業から30年!!
第50回生集ろう!!

恩師斎藤嘉郎先生が、この四月母校の学校長に栄転されました。

思えば、昭和二十七年三月、諸兄と青雲の志を抱いて古城の門をあとにし全

学校近くの同年生三十余名の出席のもと事業内容を決定し、学校側との折衝を積み重ね、左記のような記念事業を計画いたしました。

更に、本年四月から、恩師斎藤嘉郎先生を学校長に迎え、学校改築も一段落の絶好機です。公私共ににお忙がしい折とは存じますが多数募集して三十年前の悪童にもどって騒ごうではないか。

記

○事業日程

昭和五十七年八月十四日(日)

前夜祭 別所温泉「玉屋」

八月十五日(日)

校名石碑の除幕式

慰霊式

総会税宴 「上田温泉」

○出席予定を幹事湯本清、滝沢良忠に葉書で連絡して下さい。

安全とサービスを保って20年



営業品目 LPG・配管・器具・冷暖房工事・防災器具

長野プロパンガス株式会社

本社上田店 上田市大字国分542番地
TEL 0268 (22) 5518(代)
松本支店 松本市須々々7の1番地
TEL 0263 (32) 4652(代)
諏訪支店 諏訪市湖南宇大曲222
TEL 02665 (2) 4353
塩尻工場 塩尻市広丘野村
TEL 02635 (2) 0672
長野営業所 長野市中
TEL 0262 (43) 5307

設備機器専門店
石油ガス配管工事
冷暖房給湯設備

千野商店

取締役社長 千野完吾

上田市中央6-16-8

電話(0268)3133・020737

株式会社

上田高校同窓会

関東支部の現況報告

(その9)

昭和五十六年度における主な関東支部の行事について御報告申し上げます。

●幹事会の開催について

五十六年二月十七日、新年会を兼ね、池袋の八峰園において開催。各期の代表幹事四十五名出席。六月開催予定の第二十回関東支部大会の計画について議し、幹事親睦の宴に入り、楽しく終る。

五月八日、今期第二回目の幹事会を開催。大会開催及び会報第二十五号発行について計画諸案を議論。出席六十九名。

九月二十五日、去る六月十七日に開催された第二十回関東支部大会の反省会を兼ね、幹事会を開催。盛会であった大会に益々の団結と向上を誓う、更に本会の財政と運営、事務分掌の諸案も討ち。

●各期代表幹事五十二名出席

十二月十四日、池袋八峰園において幹事会開催。出席五十名。母校八十周年の記念事業の一つとして発行された新同窓生名簿により、関東地区在住の新会員一千五百余名が分明了たことを報告。

現会員三千余名を合せ五五千五百に及ぶ会員数に達したことも報告し、年会費の値上げについても計り、次回の幹事会に結論を出すこととして閉会。

昭和五十七年三月二十四日、五十六年度の最後の幹事会開催。

九期生が八十余名出席、他校同窓会にはみられぬ若やいだ明るい大会であったことがすばらかった。来春は第八十期生を心から迎えて更に盛会を第二十一回大会としたい意気込みでもある。

●長野県下には、公私立高校合せて百三校に及ぶという。この中、六十余校が現在東京に同窓会をもち、お互の連絡もとっている。そしてまた東京、北信、中信、南信の四地区に夫々の連合会もあり、本会は東信地区の会長校をつとめ、僚友各校同窓会との交友も

●結ぶ
母校を巣立った老、壮、若の同窓生が、従横の連絡にもつとめ、故郷を遠く去ったこの都会地に、美しくも尊い同窓会の団結のもとに相助けましの会合を保持していることの幸を痛感する次第でもある。(支部長・矢島五郎記)

●結ぶ
母校を巣立った老、壮、若の同窓生が、従横の連絡にもつとめ、故郷を遠く去ったこの都会地に、美しくも尊い同窓会の団結のもとに相助けましの会合を保持していることの幸を痛感する次第でもある。(支部長・矢島五郎記)

●結ぶ
母校を巣立った老、壮、若の同窓生が、従横の連絡にもつとめ、故郷を遠く去ったこの都会地に、美しくも尊い同窓会の団結のもとに相助けましの会合を保持していることの幸を痛感する次第でもある。(支部長・矢島五郎記)

上田高校同窓会

長野支部の現況

上田高校同窓会の長野支部が発足したのは、昭和五十一年七月七日であつて、初代支部長には橋詰英雄氏(二十一回)が就任し、以来六年が経過して、今年は第七回目の支部総会が開催されることになっている。

長野支部の役員は、支部規約により「上田高校及びその前身校の出身者で、主として長野市内に居住する者」で組織することになって居り、現在二百七十余名が在籍して居る。

支部の役員は、現在支部長には小林巴根夫(二十三回)、副支部長には倉島宗二(二十八回)、上石睦二郎(三十二回)がなつており、任期は三年となつて居る。支部は毎年一回開催され

ており、申合せにより、毎年七月七日の七夕の日を開くことになっている。

●結ぶ
母校を巣立った老、壮、若の同窓生が、従横の連絡にもつとめ、故郷を遠く去ったこの都会地に、美しくも尊い同窓会の団結のもとに相助けましの会合を保持していることの幸を痛感する次第でもある。(支部長・矢島五郎記)

●結ぶ
母校を巣立った老、壮、若の同窓生が、従横の連絡にもつとめ、故郷を遠く去ったこの都会地に、美しくも尊い同窓会の団結のもとに相助けましの会合を保持していることの幸を痛感する次第でもある。(支部長・矢島五郎記)

●結ぶ
母校を巣立った老、壮、若の同窓生が、従横の連絡にもつとめ、故郷を遠く去ったこの都会地に、美しくも尊い同窓会の団結のもとに相助けましの会合を保持していることの幸を痛感する次第でもある。(支部長・矢島五郎記)

●結ぶ
母校を巣立った老、壮、若の同窓生が、従横の連絡にもつとめ、故郷を遠く去ったこの都会地に、美しくも尊い同窓会の団結のもとに相助けましの会合を保持していることの幸を痛感する次第でもある。(支部長・矢島五郎記)

●結ぶ
母校を巣立った老、壮、若の同窓生が、従横の連絡にもつとめ、故郷を遠く去ったこの都会地に、美しくも尊い同窓会の団結のもとに相助けましの会合を保持していることの幸を痛感する次第でもある。(支部長・矢島五郎記)

●結ぶ
母校を巣立った老、壮、若の同窓生が、従横の連絡にもつとめ、故郷を遠く去ったこの都会地に、美しくも尊い同窓会の団結のもとに相助けましの会合を保持していることの幸を痛感する次第でもある。(支部長・矢島五郎記)

上田高等学校校史

編集事業の現況

香山守雄

五十七年三月過去三年余、学校側の責任者として敬敏を發揮していた北村辰雄氏が飯田高校教頭に栄転した。その後任に事もあるうに私が擬せられ、当惑する暇もなく引き継ぎがなされ、四月に入ると次々に処理すべき仕事もまわつてきた。今は非力な身ではあるが、関係各位の御力添えを賜りつつ、それなりにも全力を尽すことに腹を括つ次第です。そんな私に命ぜられた初仕事が、この原稿であつた。事業の発足、経過など前任者北村から教示された内容を基にして、同窓生各位に「記念誌」編集の状況報告を申し上げ、併せて一層の御協力をお願い致します。

上田高校独立八十周年記念事業の一環として「記念誌」の編集が企画され、遠藤恭介・遠藤憲三両氏を正副とする委員会が発足したのが昭和五十二年であり、次のような執筆分担が決まったのが五十四年であつた。(以下敬称略)

●結ぶ
母校を巣立った老、壮、若の同窓生が、従横の連絡にもつとめ、故郷を遠く去ったこの都会地に、美しくも尊い同窓会の団結のもとに相助けましの会合を保持していることの幸を痛感する次第でもある。(支部長・矢島五郎記)

昭和五十年代 北村辰雄
同窓会編
柳沢文秋・竹内敬太郎
しかし三年も経過したので、主として次の変更がなされた。
中学編・高校編・同窓会編を分冊として、中学編を可及的速やかに刊行する。その目途は出来れば五十七年中、遅くとも同年度内とする。明治大正期の執筆に遠藤恭介・柳沢文秋・北村辰雄の三名が加わる。山極真平に校友会誌などにみられる詩歌の流れをテーマとする一項目を追加分担してもらう。
中学編全体の監修を倉沢剛にお願いする。その中学編の明治、大正の執筆担当の増田徳は昨年四月史料室の事業が終了退職されたので、担当者を変更し、明治時代を柳沢氏に、大正時代を北村に変更し、昨年末から鋭意努力をして、明治時期は倉沢文博士の校閲を終り、飯田高に転任した北村担当部分を柳沢が継続して執筆を進めることにして努力中である。昭和期についても既に文芸史の起草など、全員が八月中旬の全期草稿化を目指して奮斗中である。聞いていただくと、中高校編・同窓会編について、同じく八月の第一次草稿化を努力目標にしているが、中学編刊行直後より、監修者の決定など編集の細案が煮詰められ、それに

●結ぶ
母校を巣立った老、壮、若の同窓生が、従横の連絡にもつとめ、故郷を遠く去ったこの都会地に、美しくも尊い同窓会の団結のもとに相助けましの会合を保持していることの幸を痛感する次第でもある。(支部長・矢島五郎記)

●結ぶ
母校を巣立った老、壮、若の同窓生が、従横の連絡にもつとめ、故郷を遠く去ったこの都会地に、美しくも尊い同窓会の団結のもとに相助けましの会合を保持していることの幸を痛感する次第でもある。(支部長・矢島五郎記)